

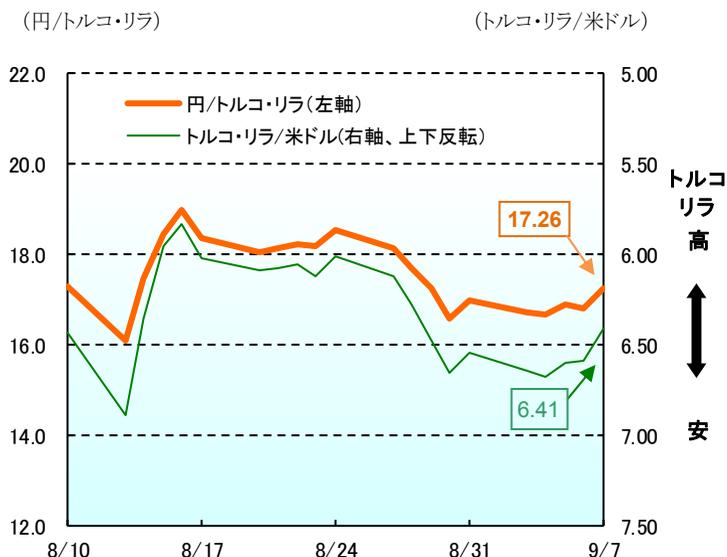
【2018年9月1日～2018年9月7日までの推移】

【1】先週の回顧

先週のトルコ・リラ相場は対米ドル・対円ともに小幅に上昇しました。トルコの2年国債金利は横ばいでした。

8月のCPI(消費者物価指数)が市場予想を上回ったことによりトルコ中央銀行から次回会合での政策調整を行うとの異例の声明が出されたことを受けて、13日(現地、以下同様)の金融政策決定会合でトルコ当局より何らかの対応策が採られるのではないかとの思惑から、トルコ・リラは安定的に推移しました。また、シリア情勢で対立するロシアと首脳会談が持たれたことにより、ロシアとの関係改善も期待されました。債券市場は様子見姿勢が強く、国債金利はほぼ横ばい圏での小動きでした。

【トルコ・リラ 為替推移】 (2018年8月10日～2018年9月7日)



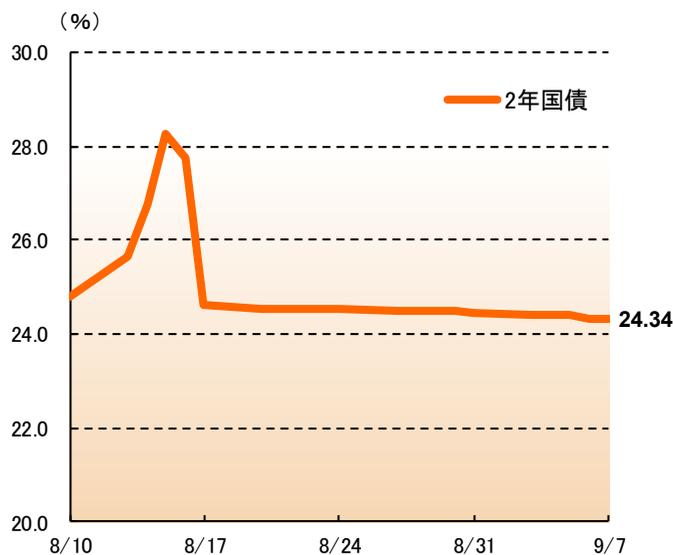
※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

【2】今週の見通し

今週のトルコ市場は、13日の金融政策決定会合が最も注目されます。先週の中央銀行による金融政策調整を行うとの声明により、市場は大幅な利上げを織り込みつつあります。ただし、中央銀行は利上げを実施するとは言っておらず、利下げを望んでいるエルドアン大統領の意向に反した政策判断が出来るかは依然として不透明です。結果次第では、再度トルコ・リラ相場が不安定化する可能性もあります。

米国との関係を巡っては、米国人牧師の起訴準備をした検察官が異動するといった動きがありました。米国との対決姿勢を強く示すエルドアン大統領の体面を保ちつつ、司法面での妥協が図られる可能性があります。

【トルコ 金利推移】 (2018年8月10日～2018年9月7日)



(出所:ブルームバーグより大和投資信託作成)

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>